

東北大学公共政策大学院 SCHOOL OF PUBLIC POLICY, TOHOKU UNIVERSITY

2019 大学院案内

教室からフィールドへ―――「現場力」を身につける。

地に足のついた 解決策へのこだわり

東北大学 公共政策大学院院長

阿南 友亮



時代の推移とともに変わりゆく国際・国内社会の問題・課題をどのように解決していくべきなのか。公共政策大学院の最も重要な特徴は、問題・課題の中身を検証することに留まらず、それらに対する解決策を提示することに研究と教育の主眼を置いている点にあります。

東北大学公共政策大学院は、数ある公共政策大学院のなかでも特に「現場力」を磨くことに強いこだわりを持っている点を特徴としております。「現場力」とは、問題・課題が発生している社会の現場と解決策を検討している組織の現場に適応しながら個性を発揮するために必要となる知識、視座、スキル、経験を意味します。

本大学院では、2011年の東日本大震災以降、東北地域の様々な現場、すなわち防災・復興、 少子高齢化対策、持続可能なコミュニティー作り、再生可能エネルギーの挑戦、農業の競争 力向上といった現場に活動の重点を置いてきました。また、海外の現場にも赴き、広報外交 や危機管理などについても検討を重ねてきました。問題・課題が発生している現場に身を置 きながら、最善の解決策を探っていく。このような姿勢を重視する本大学院では、在学生が現 場と非常に近い距離で2年間研鑽を積みます。

本大学院のカリキュラムの核となる公共政策ワークショップは、政策立案のプロである現役の国家公務員(実務家教員)及び政策を科学的に分析する研究者(研究者教員)による共同指導のもとでおこなう数々の現地調査をつうじて「現場力」を身に付けつつ、解決策の編み出し方を実践的に学ぶ場となっております。在学生は、中央省庁、自治体、NGO、そして企業がどのようなアプローチで問題解決に取り組んでいるのかをそれぞれの現場で調査・体験しつつ、自分たちが将来それらの組織のなかでどのような形で貢献できるのかについて具体的なイメージを育んでいきます。

毎年本大学院の門を叩く新入生の諸君は、4つのワークショップに分かれ、最初の1年間を共同作業のなかで過ごします。それぞれのワークショップ内のチームワーク並びに中間・最終報告会における他のワークショップとの緊迫した質疑応答の応酬は、本大学院の校風である学生間の強い絆を生みます。そうした絆は、卒業後もお互いを支え合うOB・OGのネットワークの基盤となっております。

強い絆と「現場力」を誇る東北大学公共政策大学院にまた新たなメンバーをお迎えすることを楽しみにしております。





3つの特長

実践的なワークショップ

東北大学公共政策大学院の中核をなす「公共政策ワークショップ」 では、現場を幅広く体験・観察し、現場の声を踏まえて、具体的な政策 提言をつくりあげていきます。

特長 高度で多彩なカリキュラム

法学、政治学系の科目にとどまらず、経済学、さまざまな政策分野に 関する演習など、高度で多彩なカリキュラムを提供しています。

・ 少人数制によるキャリア形成支援

研究者教員、実務家教員が受け持ちの学生に対して、学習、進路など、きめ細かく相談・指導に当たります。

2年間で修了

標準的な修了年限は2年間ですが、

- 実務経験を有し、特に優秀な成績を修めた学生は、1年間での修了も可能。
- 社会人学生で、仕事との両立など一定の要件に該当する場合には、 「長期履修学生」として、最長で4年間までの在学が可能。
- 修了者には「公共法政策修士(専門職)」の学位を授与

Contents

院長あいさつ02
3つの特長03
【特長1】 実践的なワークショップ04
2018年度 公共政策ワークショップ[
【特長2】 高度で多彩なカリキュラム08
教員紹介10
【特長3】 少人数制によるキャリア形成支援 ······12
座談会 公共政策を学び始めて16
さまざまなフィールドで活躍する修了生19

就職·進路関係 ······	21
入試関係情報	23

パンフレット内のQRコードのリンク先を参照頂ければ、 詳細な情報をご覧いただけます

実践的なワークショップ

公共政策ワークショップ

東北大学公共政策大学院の「真髄」

POINT

「公共政策ワークショップ」は、東北大学公共政策大学院の「代名詞」とも言える中核的な演習科目です。政策は、理論的側面からの精緻な組み立てが必要ですが、同時に現実の社会で有効に作用するものでなければなりません。「現場重視」は、我々が最も大切にしている教育理念の1つです。



公共政策ワークショップI(1年次必修)、IIA・IIB(2年次必修)

1年次の「公共政策ワークショップ I」(通年12単位)では、中央省庁、地方自治体などの協力を得ながら、それらの機関が直面する政策課題に対して「政策提言」をまとめていきます。例年概ね4つのプロジェクトが設定され、それぞれ5名~8名程度の学生が所属します。プロジェクト運営は「学生主体」とし、実社会と同様、各学生が役割、責任、主体性を持ちながら、チームとして行動し、成果を出すことが求められます。実務家教員・研究者教員の双方が指導に当たり、「机上の空論」にならないよう、行政機関等への現地調査を繰り返しながら検討を深め、提言内容をまとめていきます。

7月と12月の2回開催される報告会は、文書作成能力、プレゼンテーション能力に加え、真摯で白熱した質疑応答を通じて応答、説明の能力を磨く格好の機会となります。

また、2年次の「公共政策ワークショップ || A・ || B」(計8単位)は、東北大学公共政策大学院での「総決算」となります。各学生が自ら研究テーマを設定し、教員の指導を受けながら個人で研究を進め、成果を「リサーチ・ペーパー」としてまとめます。現地調査の重視や政策提言を内容とする点は、「公共政策ワークショップ | 」と同様です。



仙台市教育委員会に対する
2016年度公共政策
ワークショップ | プロジェクトAの
メンバーによる報告の様子は、
河北新報の記事として
2017年3月17日に報道されました。

公共政策ワークショップIの進め方

基礎知識の習得

出身学部の違いなど、学生のバックグラウンドは多様。まずは、調査研究の基礎となる専門知識を習得します。

2 現地調査の開始、課題の発見と整理 調査研究の方向性を検討

机上の検討だけでなく、実際に現地に赴き、関係者の生の声を 聴くことで、政策の現状や課題をリアルに捉えます。



3 報告会 I (7月下旬)

プロジェクトの進捗状況と今後の進め方についての報告会。 学生同士、教員との質疑がブラッシュアップのヒントになります。



政策提言に向けた調査研究の深化 提言内容の具体化・「ツメ」の作業

引き続き、現地ヒアリングを繰り返しながら、リアリティのある政策提言を追求していきます。



公共政策ワークショップ I 最大の「やま場」。提言先等の方からもコメントをいただき、提言のクオリティに磨きをかけます。



最終報告書の完成・提言先への説明・送付



■2018年度 公共政策ワークショップ I

「公共政策ワークショップ I」は、例年、概ね 4 つのプロジェクトから構成され、1年次の学生はそのいずれかに所属します。研究テーマは毎年度設定されますが、これまで、東日本大震災からの復興、農業振興、地域活性化、環境・エネルギー、外交など多岐にわたるプロジェクトに挑んできました。ここでは、本年度まさに進行中のプロジェクトについて紹介します。

過去のワークショップのプロ ジェクトのテーマは、東北大 学公共政策大学院のウェブ サイトを参照して下さい。





人口減少社会に対応したまちづくり法制に関する研究

人口減少・高齢化先端地域を回って「考える足」になろう!



主担当 教授 島田明夫

1980年東京大学経済学部卒、2007年東京大学博士(工学)、1980年旧建設省入省、住宅宅地政策、環境政策、経済政策、産業政策、在外勤務(在英国大使館)、防災対策などに従事し、関東地方整備局用地部長、四国地方整備局次長を勤めた。その後、東京大学大学院法学政治学研究科客員教授、政策研究大学院大学教授を経て、2010年8月より本学教授、2014年月よりパーマネン・教員。

我が国では、今後、地方圏を中心に人口減少が急速に進行することが見込まれており、これに伴い、土地に対する需要が減少することにより、土地利用に関し様々な課題が生じることが想定されております。このような状況において、今後のまちづくりに当たっては、既存ストックの状況に合わせたコンパクトなまちづくりへと発想を転換することが不可欠です。



人口減少・高齢化社会の最先端地域である東北にある大学の使命として、人口減少に対応したまちづくりの在り方を考える必要があります。WSAでは、人口減少都市10都市を選んでヒアリング・実地調査を行い、それを踏まえた現実的なまちづくりの政策提言を目指しております。また、人口減少の著しい東日本大震災被災地の声に耳を傾けて、実態に即した復興まちづくりの手法を見つけ出したいと考えております。一緒に「考える足」になって、未来の東北のみならず、日本の将来を見据えてゆきましょう。

プロジェクト **PROJECT**

子どもの貧困対策の更なる推進に向けた政策研究

生まれ育った環境に左右されない将来のために



^{主担当} 教 授 白川 泰之

1995年厚生省入省。老人保健福祉局(当時)、 大臣官房、社会・援護局等のほか、 三条市、大分県に出向し、主に介護保険制度 などの高齢者福祉政策を担当。 新潟大学法学部・准教授、医療経済研究機構・ 研究主幹を終て2015年8月より現職。 我が国は、世界的に見て「経済大国」と目される立場にある一方で、子どもの相対的貧困率は13.9%(平成27年)とOECD諸国の平均よりも高くなっています。こうした子どもたちは、学習機会の制限だけでなく、非認知能力の低下、社会からの孤立など多様で複合的な課題を抱えています。このため、多角的で包括的な政策展開が求められます。また、子どもの貧困対策



は、社会における「公平」や富の分配の在り方など社会政策に関する根源的な問いを含んでいると言えます。

本ワークショップでは、仙台市をフィールドとして、子どもの貧困を改善するための政策の 在り方について調査研究を行っています。そして、必ずしも既存施策の枠組みにとらわれることなく、大胆な内容も含め必要とされる政策を打ち出していくべく、教員・学生一丸となって取り組んでいます。

PROJECT C

長期マクロ対外政策 歴史・策定体制・試論

国際情勢の長期見通しと日本の対外政策の研究



^{主担当} 教 授 若林 啓史

1986年東京大学法学部卒業、外務省入省。 1986-2016年外務本省、山梨県警察本部、 内閣府国際平和協力本部事務局、在外公館 (オラク、シリア、ヨルダン、イラン、オマーン等)に 勤務。2016年より現職。 国際社会において、現時点での基本的集団は国です。国を一単位として、外部環境の変化に対処する方策は、対外政策と総称されます。

対外政策に関し時間軸を長期・超長期に取って みると、国の規模にかかわらずそれなりの大戦略が あるはずです。このような一国のグランド・デザイン を「長期マクロ対外政策」と呼んでみます。長期マク



口対外政策には、①外部環境、つまり国際社会の現状分析とその将来予測、②その国の国力の現状とその増進策、③将来予測に対応して、いつどのような国力を投入するか、という三側面があります。本ワークショップでは、長期マクロ対外政策の各国の実例を過去に遡って研究し、日本におけるその策定体制と方向性の現状調査を行い、それらを基礎として学生による将来に向けた試論を提示します。

プロジェクト **PROJECT**

東北地域からエネルギー施策を考える

2050年に向けて日本と東北のエネルギー施策を提言



^{主担当} 教 授 深見 正仁

1985年環境庁入庁。滋賀県庁、経済企画庁、 東北経済産業局等に出向。北海道大学公共 政策大学院特任教授、原子力規制庁参事官、 環境省秘書課長、大臣官房審議官を経て、 2017年8月より現職。 現代文明の維持発展のためには巨大なエネルギーを確保する必要がある一方、気候変動の悪影響を防止するため、エネルギー起源CO2の排出削減が世界全体の課題となっています。日本では、2050年までに温室効果ガスの排出を8割削減することを目標にエネルギー需給構造の改革を進めています。

東北地域は、これまで首都圏への電力供給に大きな役割を果たしてきましたが、福島原発事故も一つの契機に、東北地域でもエネルギーを巡る様々な動きがあります。本プロジェクトでは、2050年の日本社会を想定し、その中での東北地域の役割を検討し、環境・経済・エネルギー上、持続可能な社会を実現するためのエネルギー施策を提言することを目指しています。



在学生から

機会を活かし、成長する

神奈川県出身 明治学院大学法学部政治学科卒業 後藤 さつき (平成29年度入学)

当初研究テーマに対して深い知識がなく、ついていけるのかが不安でしたが、質問に丁寧に答えて下さる先生方やワークショップのメンバーをはじめとした同期のサポートにより、無事研究を終えることができました。ヒアリングでは普段会うことのできないような役職の方に会うことができました。そういった機会を無駄にせず、自分の最大の力を出すということを常に心がけていました。全力で取り組めば、1年後には自分の成長を必ず感じられます。ぜひ、東北大公共の魅力を味わってください。





カリキュラム

東北大学公共政策大学院のカリキュラムは、「必須科目」、「基幹科目」、「展開科目」より構成されています。 修了には、必須科目・基幹科目を含めて48単位以上の修得が必要です。



必須科目

「必須科目」は、「公共政策ワークショップI(12単位)」及び「公共政策ワークショップIIA(2単位)」「公 共政策ワークショップIIB(6単位)」並びに「政策調査と論文作成の基礎(2単位)」です。

このうち「政策調査と論文作成の基礎」では、公 共政策大学院の学修と研究に必要な調査及び論 文作成のための基礎的な技法を習得します。論理 的議論の組み立て方や論文のフォーマット、効果 的なプレゼンテーションの実践、政策情報の収集 法、統計データの作成と解釈、法的枠組みを把握するための方法、調査の成果を報告書や論文としてアウトプットするための方法などを学びます。

すべての学生が円滑に履修を進められるよう、 法学部出身の学生のみならず、理科系を含めた他 学部出身の学生にも十分に配慮した教育を行って います。



基幹科目

学生は1年次より、「必須科目」とは別に、「基幹科目」の諸科目を履修することが求められます。「基幹科目」は法律学、政治学、経済学などの分野からバランスよく構成され、このうち18単位が選択必修となります。

「基幹科目」に配当されている授業は可能な限り 学際的であることが目指され、複数の法領域・政策 領域に関わる問題を多角的な学問領域から分析す るように配慮されています。科目によっては、研究 者教員・実務家教員との連携、学外の実務家による 講演なども交えて行われます。

理論と実務の双方の観点から公共政策の基礎的・体系的な知識を学習する授業、公共性についての理解を深め、現象の背後に存在する理念的・価値的な問題についての洞察力を涵養することを目的とした公共哲学に関する授業など、多彩な授業が開講されています。

展開科目

「必須科目」及び「基幹科目」の履修と並行して、学生は必要に応じて、より高度な社会科学の専門知識を習得し、 または理科系の諸学を含めたより広範な領域にわたる政策学について学びます。なお、「関連科目」として会計 大学院の授業を履修することもできます。

東北大学公共政策大学院科目一覧(平成30年度実績)

1 必須科目

- ■公共政策ワークショップ I ・プロジェクトA ・プロジェクトB ・プロジェクトC ・プロジェクトD
- ■公共政策ワークショップⅡ A・P
- ■政策調査と論文作成の基礎

2 基幹科目

公共政策基礎理論/公共政策特論 地域社会と公共政策論/行政法の法と政策 租税制度論/政策税制論 国際社会と各国法秩序 グローバル・ガバナンス論/経済学理論 財政学/地方自治法/社会福祉政策 防災法/政策評価論/政策分析の手法 格差社会と経済/政策体系論/公共哲学

3 展開科目

法と経済学/環境法/実務労働法/社会保障法経済法/トランスナショナル情報法/ジェンダーと法演習国際関係論演習/現代政治分析演習/比較政治学演習ヨーロッパ政治史演習/西洋政治思想史演習日本政治外交史演習/防災政策論演習アジア政治経済論演習/行政学演習/震災と復興外交史演習/外交論演習/環境法概論ヨーロッパ法政策特論

※上記科目は、平成30年度に開講している科目です。今後変更されることがあります。

在学生から

「大胆さ」と「緻密さ」を養う 愛知県出身 中央大学法学部卒業 廣田 成英 (平成29年度入学)

いまの社会に求められるのは、大胆に考え、緻密にそれを実現可能なものへ変えていく力を持った人材。そして、この大学院には、「大胆さ」と「緻密さ」を養うことができる恵まれたカリキュラムがあります。主体的な取組が求められるワークショップや双方向の授業スタイル、幅広い知識と視座が身につく多彩な講義内容。こうした環境を存分に活用し、成長する気概を持った貴方。ぜひ、この大学院で学んでみませんか。



教員紹介

地方行財政

荒井 数 授

崇

福岡県地方課 自治省消防庁・行政局 総務省官房総務課 仙台市教育長、参議院法制局課長、地方公共団体情報 システム機構統括監、内閣官房副長官補付参事官などを経て、



政策立案のプロを目指して

本学の柱である公共政策ワークショップでは、現場 に行き、問題を見出し、解決策を検討するという、まさ に現実の政策立案の過程と同じことを行います。その 中で、ワークショップの仲間と協力し合い、また、時には 激しく議論をして考え方をすり合わせ、ワークショップ としての共通見解を作り上げていくことなどを通じて、 組織として仕事をすることを学んでいきます。併せて、 諸講義を通じて理論的かつ専門的な知識も身に付け ることができます。一緒に実務と理論を学びましょう。

行政法

飯島 淳子 授

東京大学法学部卒業、 東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。 2012年より現職。専攻は行政法。



ここにしかない公共政策大学院を

フランスのENA(国立行政学院)は、東北大学公 共政策大学院の設立にあたっての一つのモデルで した。それから、学生と教員が試行錯誤しながら作 り上げてきたのは、仙台市、宮城県、東北地方に根 差した、ここにしかない公共政策大学院であると今 は確信しています。フランスも東京もいいけれども、 仙台のこの地で、ともに、そしてそれぞれに、夢を追 い続けていけたらと願っています。

国際法

1983年東京大学法学部卒業。東北大学法学部助教授 を経て、1999年より東北大学法学部教授。2004年から 2006年まで東北大学大学院法学研究科長・法学部長、 2006年から東北大学理事・大学院法学研究科教授、 理事·副学長·教授 植木 俊哉 現在に至る。専門分野は、国際法・国際組織法。



充実した教育内容の大学院

東北大学の公共政策大学院は、2004年に国立 の公共政策大学院として最も早く開設され、少人数 の学生に対する密度の濃い充実した教育内容を特 長としています。皆さんは、「公共政策ワークショッ プ」等を通じて、単なる知識や技術にとどまらない政 策立案過程でのさまざま課題に自ら挑戦し、問題の 解決に向けて取り組む専門的能力を身につけていく ことができます。「公」の課題に挑戦する意欲に富ん だ皆さんの入学を心からお待ちしています。

比較政治学、政治経済学、 国際ボランティア論

岡部 恭宜 授

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。 博士(学術)。東京大学社会科学研究所、JICA研究所 を経て2015年4月より現職。専攻は比較政治学、 国際ボランティア論。



多様なレンズから何が見えますか

公共政策を考察するための視点は様々です。実 務はもちろんのこと、政治学、法学、経済学、社会学 といった複数の学問から焦点を当てることも必要 ですし、グローバル化の時代、国際的な視点も欠か せません。研究対象についても、中央や地方の政府 の政策のほか、企業、NPO、市民団体といった非国 家アクターの戦略や行動に目を向けることが求め られます。本学はこうした多様なレンズを用意して います。是非覗いてみて下さい。



教授 阿南 友亮 (中国近代政治史、現代中国政治)

政治思想史

鹿子牛 浩輝 授 数

1971年福岡県生まれ。西南学院大学法学部卒 九州大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程 修了。博士(法学)。2017年4月より現職。 専門分野は政治思想史。



実践的判断のための哲学的探求

私は主に「公共哲学」という科目を担当しています。 この科目は、公共政策を提言する際の哲学的基盤に 関心を寄せる分野です。実践的な政策は、そもそもど のような政治的価値に基づいているのか、その価値 判断それ自体が適切なのか。こうした根源的な問題 の自覚がなければ、具体的な提言も無益となるかも しれません。公共哲学は、こうした理論的・哲学的側 面に正面からアプローチする学問であり、これこそ大 学院で探求されるべき知的営為の一つだと思います。

行政法

北島 周作 教 授

東京大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学 研究科博士課程修了。博士(法学)。成蹊大学法学部 准教授、東北大学法学研究科准教授等を経て、 2015年12月より現職。車攻は行政法。



地道な基礎トレーニングの必要性

公共政策大学院に入ってこられる方は、公務員と なって政策の企画立案をし、社会問題を解決したい という方が多いと思います。しかし、例えば、打つ練 習、投げる練習だけでは野球はうまくならず、筋力ト レーニングやランニングを必要とするように、政策を 企画立案し、それを実施するためには、基礎となる 理論や道具となる法律に関する理解を深めることが 不可欠です。公共政策大学院でこうした基礎トレ ニングを行ってくれることを期待しています。

農林水産政策

齋藤 伸郎 教

1989年東京大学法学部卒業。農林水産省入省後、青森県 田子町役場、東北農政局、消費者庁参事官、農林水産技術 会議事務局研究開発官(環境)、水産庁水産経営課長、大臣 官房検査部調整課長等を経て、2016年8月より現職。



地域資源を活かし現場から我が国の未来を描く

人口減少・高齢化、社会経済の変化、新技術の開 発普及等が進展する中で、地域の将来をどう描いて いくのか。平成以後の政策に必要なものは何か。公 共政策ワークショップ等で被災地や各地の現場に 精力的に足を運び、調査研究を深めていくほど、一 筋縄では解決できない現場・現実の課題も益々実感 するでしょう。本大学院での知的格闘の積み重ねは、 皆さんが政策のプロフェッショナルとなり、その使命 を遂行する上で大いに役立つものと確信しています。

国際関係論

戸澤 英典 数 授

1966年岩手県生まれ。東京大学大学院法学政治学研究科 博士課程単位取得退学。エッセン総合大学留学、FU代表部 専門調査員、大阪大学法学部講師・助教授を経て2005年 4月に東北大学助教授、2010年7月より現職。 2014年から2016年まで公共政策大学院長



手づくりで進化・発展する大学院

日本では初めての試みであった「公共政策ワーク ショップ」を中心とする本大学院は、教員・学生一体と なって手づくりで練り上げ、今なお自らを進化・発展 させていると自負しています。少子高齢化や格差社会 の進行による諸問題に直面し、さらに日本をとりまく 国際状況はますます険しさを増していますが、この難 しい時期だからこそ、望ましい将来像を構想し具体 的な政策・施策に練り上げ実現していく、そんな人材 を数多く輩出すべく力を尽くしたいと思っています。



···· 2ページ

島田 明夫(都市法政策(国土交通省出身))

······ 6ページ

教授 深見 正仁 (環境政策(環境省出身))

···· 7ページ

行政法

中原 茂樹 授

1968年大阪府生まれ。1992年東京大学法学部卒業、 1997年東京大学大学院法学政治学研究科博士課程 単位取得退学。大阪市立大学法学部助教授(准教授) を経て、2009年10月より現職。専攻は行政法。



「公」とは何かを考え、実現する

公共政策大学院での勉強の究極の目標は、「公」 とは何かを具体的なレヴェルで考え、実現するため のスキルを身につけることだと思います。東北大学 公共政策大学院は、そのための充実した教授陣と 環境を用意して、皆さんをお待ちしています。



西岡 授

1972年東京都生まれ。1998年早稲田大学社会科学部卒業。 早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程単位取得退学。 金沢大学法学類准教授、同教授を経て、2015年10月より現職。 専攻は政治学・行政学。



公共政策を考え抜く

公共政策とは、理想と現実のあいだのギャップで あるところの「問題」を解決して、理想の社会に少し でも近づけるためのさまざまな取組のことを指しま す。社会には解決が求められている問題が溢れてい ます。にもかかわらず、なぜ問題は放置されたまま なのでしょうか。問題を解決するためにはどうすれ ば良いのでしょうか。そもそも、「理想の社会」とは どのような社会なのでしょうか。東北大学公共政策 大学院で一緒に、そして徹底的に考えてみませんか。

<mark>防災政</mark>策、事業継続計画 <mark>(国土交</mark>通省出身) (<mark>本務:</mark>災害科学国際研究所)

教授(兼務) 丸谷 浩明

1983年東京大学経済学部卒。建設省入省後、内閣府防災 担当企画官、京都大学経済研究所教授、(財)建設経済 研究所研究理事(東京工業大学特任教授を兼務) 内閣府 防災担当参事官、国土交通省国土交通政策研究所政策 研究官を経て、2013年10月より現職。経済学博士。



東日本大震災の被災地で防災を学ぶ

東北大学は、東日本大震災の被災地の唯一の 「総合大学」です。また、東北はいまだ復興の途上で、 問題が続いています。2015年3月に仙台で開催さ れた「国連防災世界会議」で「仙台防災枠組」が採 択され、世界から注目されている中、この地でぜひ 防災を学びましょう。身近な防災の知恵から、若者 の地域の防災での役目、そして防災から見た政府・ 自治体の政策枠組みまで、視野を広げてください。

労働法

桑村 裕美子 准教授

鳥取県出身。 東京大学法学部卒業。同大学院法学政治学研究科 助手を経て、2007年より現職。





考え抜く力を

公共政策の領域では、新たな発想を示すだけで なく、それを説得的に論じることが求められます。1 つのテーマについて、いろいろな意見があることを 学び、迷いながらも最後まで考え抜くという機会は、 あまりないと思います。本大学院の様々な授業を受 講しながら、1年単位の長期にわたり困難な問題に 向き合い、仲間とともに一つの結論を導くという経 験をしてみませんか。卒業の頃には、きっと大きな 達成感があることでしょう。



白川 泰之(社会保障政策(厚生労働省出身))

···· 6ページ



教授 若林 啓史 (外交、国際問題(外務省出身))

···· 7ページ

国際法

西本 健太郎 准教授

東京大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学 研究科博士課程修了。博士(法学)。2012年4月より 現職。 東門分野は国際法・海洋法。



変化する時代の中で本質を見極めたい

「これまで通用してきた方法が、これからも通用する とは限らない。」少子高齢化による社会の変化や、経 済のグローバル化による産業構造の変化といった 様々な変化の中で、そうした局面は今後増えていくこ とでしょう。変化する時代の中では、過去のやり方にと らわれず、表面的な新しさにも惑わされず、課題の本 質を的確に見極めることが一層重要になります。東北 大学公共政策大学院では一つの課題と徹底的に向き 合うための場を用意して、皆さんをお待ちしています。

租税法

藤岡 祐治 准教授

東京大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究科 法曹養成専攻修了、ハーバード・ロー・スクール(LL.M.)修了。 東京大学大学院法学政治学研究科助教、財務省財務総合 政策研究所研究官を経て、2018年4月より現職。 専攻は租税法。



政策立案に必要な能力を養う

政策の立案は、関連するデータを集め、分析し、 それに基づいて行う必要があります。また、その政 策がどのような影響を与えるかも、ミクロ及びマク 口の観点から考えなければいけません。東北大学 公共政策大学院では、政策立案に必要な能力を授 業やワークショプを通じて養います。国、公共の利 益を高めるためにはどのような政策を立案すべき かという難しい課題について、熱意を持って取り組 んでくれる方を全力でサポートします。

日本政治外交史 伏見 岳人 准教授

東京大学法学部卒業。東京大学大学院法学政治学 研究科博士課程修了。2011年4月より現職。 専攻は日本政治外交史。



日本の未来像を議論する

公共政策ワークショップは、地域社会や国際社会 の直面する現在進行形の問題を取り扱う実践的な 教育プログラムです。全国各地から集う仲間たちと共 に、自治体や現場でのヒアリングを数多くこなし、多 種多様な資料を読み込んで、チームとしての提言にま とめていく作業は、公共政策の担い手を志す人々に は一生の財産と呼ぶべき貴重な経験になることで しょう。この仙台の地で、皆さんと一緒に日本の未来 像を真剣に議論できることを楽しみにしています。

法情報学

謙 舖 金谷 吉成

1970年岩手県生まれ。1994年東北大学法学部卒業。 (財)仙台応用情報学研究振興財団研究員、東北大学 法学部助手、同法学研究科講師・准教授を経て、 2016年4月より法政実務教育研究センター講師。 専攻は法情報学。



学際的アプローチ

情報通信技術のめざましい発展は、私たちの社 会や生活に大きな変革をもたらしています。複雑化 した社会問題と向き合う場合、法学や政治学など の伝統的な社会科学からのアプローチだけでは必 ずしも十分とは言えません。すなわち、人文科学、自 然科学を含めた多方面からの分析と評価が必要 不可欠です。本大学院には、それを可能にする教授 陣やさまざまな学問分野からの学生が集っていま す。このような環境の下で、学際的な知識・考え方 を身に付けてください。



実務家教員



少人数制による キャリア形成支援



教員との近い距離感、 実務家教員も含めたキャリア形成支援

POINT

公共政策ワークショップ I・II の指導教員が少人数の学生を受け持ち、学修面での指導だけでなく、 社会に送り出すという視点からもきめ細かくサポートします。

明日の日本の担い手を送り出すために

東北大学公共政策大学院では、1学年30名の学生に対し、公共政策ワークショップ、基幹科目などの担当教員だけでも10名以上の教員がインテンシヴに担当し、きめ細かな教育・指導を実施しています。また、学生一人一人にアドバイザー教員がつき、履修相談・進路相談を定期的に行っています。さらに、国家公務員総合職を志望する学生につい

ては、希望者を対象に官庁訪問を想定した面接指導を実施するなど、中央省庁出身の実務家教員の 強みを活かした取組も行っています。

我々は、学修面だけでなく、修了後の進路に関しても、学生のよき相談相手、よき理解者、かつ、よき指導者でありたいと考え、教室の内外を問わず、日々学生と接しています。

在学生 から

自ら考え抜き、キャリアを確定させる 編島大学行政政策学類卒業 津田 育海 (平成29年度人:

当大学院は、大方の学生が就職を前提に入学してきます。学生によってバックグラウンドや目指す道は様々であり、その中で自分は何を学びたいのか、キャリアにどう活かすかを考え抜く2年間になります。当大学院の最大の魅力は、教員と学生の距離が非常に近いことです。教員が学生一人ひとりのキャリアプランを把握し、その実現のために的確なアドバイスをくださいます。教員の助言を受けつつ、自ら考え抜き目指すキャリアを確定させる場所がこの大学院であると言えるでしょう。



Campus life







働きながら学び直しを 希望される社会人の方に



東北大学公共政策大学院には、地方公共団体や民間企業等に勤務しながら、政策立案や企画能力の向上、知識の ブラッシュアップ等のために学んでいる社会人学生が多く在籍しています。

仕事と学業の両立を実現し、日々、成長を続けている社会人学生の皆さんを紹介します。



地方議会議員

菊地 崇良 宮城県出身





(ワークショップのメンバーと。本人は左奥

東北大公共政策大学院を選んだ理由

今、多くの自治体は、これからの急激な少子高齢化と人口減少への対応に悩んでいます。東日本大震災からの復興も未だ途上です。これらの諸課題に向き合うため、行政と議会による政策立案機能の更なる充実が必要です。広い分野での多くの知的資源を有し、透徹した現場力の練磨を重視して問題・課題の解決に取り組み続ける本院において、自ら学び新たな時代を切り拓く議員力を培い、新たな方策を見出したいと考えたからです。

仕事との両立の状況

仙台市議会議員としての職務との完全な住み分けは容易でありませんが、他のワークショップのメンバーの協力を得つつ、先行的な調整等をおこなうことによって両立に努めています。

現在の学習内容

人口減少社会に対応したまちづくり法制に関するワークショップでの研究と、公共政策に求められる知識と技能 を再構築する基礎と実務の科目を選択しています。

今後の抱負

研究・実務両面での修学は職務に直結しており、今後の 議員活動の充実に大いに役立つものと考えております。 引き続き、学びかつ働く姿勢で絶え間なく、地方公共団体 の目下の最重要課題の一つである地方創生に貢献した いと思います。



1週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土
1時限		勤務		【講義】 地域社会と		
2時限	勤務 (公務·政務等)	(公務·政務等)		公共政策	【講義】公共政策 基礎理論	
3時限		【公共政策	勤務			【講義】
4時限	【講義】 政策調査と論文 作成の基礎	ワークショップI】 人口減少社会に 対応したまちづくり 法制に関する研究	(公務·政務等)	勤務 (公務·政務等)	勤務 (公務·政務等)	公共政策持論Ⅱ
5時限						
6時限						

参考: 勤務は通年の各種委員会や協議会、自らや会派の調査・研究等があるほか、予算・決算を含む条例などについて 1ヶ月間にわたり集中審議する議会定例会が年4回ある。



地方自治体職員

小野寺 聡 宮城県出身





(ワークショップにおいて発言中)

(ホワイトボードの前に立っている人物が本人)

東北大公共政策大学院を選んだ理由

今まで社会で培ってきた経験を、大学院の持つ最新の知見を元に整理し、次のステップへ進むための再勉強をしたいと思い、本公共政策大学院の門を叩きました。教授陣が各省庁から派遣されている実務家教員の方々と、研究者教員から構成され、それにより両面からのサポートがあり、専門性と実務性を兼ね備えている点も大変魅力的でした。

仕事との両立の状況

現在の仕事は、県南の自治体で東日本大震災からの復興事業を行っています。

現在は年休取得で通学していますが、突発的な業務が入ると、開始時間に間に合わないこともあります。ワークショップの仲間や、理解のある同僚等多くの方に支えられて学ばせていただいています。

現在の学習内容

「公共政策ワークショップ I 」では、「長期マクロ対外政策」を学んでいます。自分自身の海外勤務経験をアウトプットしながら、若い方々の新鮮な考え方をインプットする日々で、とても刺激を受けています。

今後の抱負

現所属、今までお世話になった勤務先の方々へ学んだノウハウを還元していく取り組みや、将来的な目標である IAEA職員としての勤務へ向けて着実に学びの成果を積み上げていきたいと考えています。そのために、本大学院が採用している「長期履修制度」は社会人である自身にとって大変助かっています。



(長期履修制度を活用中)

1週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土
1時限		林山 3 女				
2時限	勤務	勤務				
3時限		【公共政策 ワークショップI】	勤 務			【講義】
4時限	【講義・講習】 政策調査と論文 作成の基礎	長期マクロ対外政策		重月 195		公共政策特論Ⅱ
5時限		歴史·策定体制· 試論				
6時限						



(勤務中)

他に、下記のような勤務先で働きながら又は休職しながら、当大学院で学んでいる学生の皆さんがいます。

- ●岩手県宮古市役所
- ●陸上自衛隊
- ●仙台市議会(議員)

- ●学校法人自治医科大学
- ●宮城県庁
- ●公益財団法人仙台観光国際協会

●福島県郡山市役所 等

社会人学生の履修モデル



東北大学公共政策大学院では、学業と仕事を両立できるよう、社会人学生向けに複数の履修コースを用意しています。2年間での修了のほか、最短で1年、最長で4年での修了が可能です。



標準の履修

2年間

2年間で48単位を取得し修了します。

2年次の履修を軽く 2年間

公共政策WSII以外の40単位を1年次に集中的に取得します。2年次は、仕事の状況に応じて通学・メール等で担当教員の指導を受け、公共政策WSIIの8単位を取得し修了します。

短期集中 1年間

修了に必要な48単位を1年間で取得し修了します。公共政策に関する3年以上の実務経験がある学生を対象にしたもので、優秀な成績を修めた場合に修了が認められます。

長期履修 最長4年間

履修年限を最長4年間まで設定できます。授業料の支払総額は、標準履修(2年間)の場合と同額に 設定されています。

■ 地方公務員の方へ ~ 「自己啓発等休業制度」のご確認を ~

地方公務員法には、条例に基づき職員が大学等課程の 履修のために休業することができる「自己啓発等休業制度」の規定があります。休業期間中の給与は不支給です が、学業に専念できます。条例が制定されている場合、一般的には、以下のような名称・内容になっています。

- ☑「職員の自己啓発等休業に関する条例」といった名称の条例
- ☑ 大学院も履修先として規定
- ☑ 休業期間は原則2年間

是非、ご所属先の条例の有無、内容についてご確認ください。



司会(磯部):まず、東北大学公共政策大学院への志望理由を教えてください。

同級生に負けない問題解決能力や、社会人としての基礎力を身に付けたい(横尾)

八城:ワークショップで学びたかったということが一番です。そこで議論をしたり、ヒアリングで現場に行けることが良いと思い、さらにプレゼンテーションなどの能力を付けて社会に出たいと思いました。

横尾:実は学部時代1年留年しているため、先に社会人になった同級生が結構います。そういった同級生に負けない問題解決能力や、社会人としての基礎力を身に付けたいと思い志望しました。

寺門: 仙台市の観光に携わる外郭団体に勤めています。有給休暇の範囲内で通い、かつ4年の長期履修の申請をしています。この大学院が働きながら学べる環境であったことと、2020年東京オリンピックの先の観光を考えた時に、もう少し多角的な視点が必要だと思い志望しました。

現場に行き、ヒアリングを行い、政策を考え、それをフィードバック出来る ことが魅力(下川)

下川: 公務員志望なのですが、学部時代の法律の授業だけでは、それを使って公共政策を扱っていくイメージが十分掴めず、法律以外の部分を学びたいと思いました。また大学院の説明会で先生からワークショップについて伺い、実際に現場に行き、ヒアリングを行い、政策を考え、それをフィードバック出来ることに魅力を感じました。

司会(磯部):僕は法学部ではなく経済学部出身なのですが、様々な分野の人がいることもこの大学院の特徴です。また、学部から来た学生も社会人もいるので、社会経験の差のある人とともに学べることも良かったと思っています。

学生の立場のフレッシュな意見や視点を共有したほうがお互いにいい(寺門)

寺門:社会人は、気づかないうちに視点が凝り固まっていることがあります。私の職場ではインターンの学生を受け入れることがあり、もっと学生

の立場のフレッシュな意見や視点を共有したほうがお互いにいいと思っています。

司会(秋保):私も社会人ですが、それぞれの持っているものを交換し合うことが、結構大事なのかなと思いますし、学ぶこともたくさんありますね。

役所で担当だった社会人経験者がいるので、実態をわかりやすく 教えていただいています(下川)

司会(磯部): ワークショップを志望理由に挙げている方が多いので、それぞれのワークショップ | の感想と、この 1 ヶ月でやってきたことを教えてください。

寺門:ワークショップAのテーマは「人口減少社会に対応したまちづくり 法制に関する研究」です。7人中3人が社会人なのですが、実際の仕事に 直結する分野の方が多いです。最初に基礎知識をある程度共有して進めていくわけですが、すでに行なったヒアリングの質問が専門的な内容 になっており、結構進むのが早いと感じています。島田先生が「○年のワークショップの提言は、本当に実現した」というお話を最近頻繁にされるので、頑張らなくてはと感じています。

下川:ワークショップBのテーマは「子どもの貧困対策の更なる推進に向けた政策研究」で、4月はずっと子どもの貧困に関する本を輪読していました。今年の3月に仙台市が「子どもの貧困対策計画」を策定したので、そのヒアリングに市役所に伺う予定です。ワークショップのメンバーには、役所で生活保護の担当だった社会人経験者がいるので、実態をわかりやすく教えていただいたりもしています。学生からすると、これまで教科書で読んできた生活保護の理念と実態のギャップに戸惑う部分があるので、大変助けられています。

もっと下調べしなければという教訓を得た、非常に良い経験(横尾)

横尾:ワークショップ C は「長期マクロ対外政策 歴史・策定体制・試論」と 題し、10年後、30年後を見据えて外交、安全保障、経済等の対外政策を 研究し、解決策の提言を目指しているのですが、テーマがいきなり広い ため、まずは現在何が課題かを調べ、扱う課題を絞ることから始めてい ます。ところが4月3週目にして外務省にヒアリングに行くことになり、前

■ 司会者



磯部 功太 静岡県出身 東北大学出身



秋保 ひろこ 岩手県出身 福島県立 会津短期大学出身

■ 参加者



下川 真史 東京都出身 明治大学出身



寺門 瞳 茨城県出身 東北学院大学出身



八城 裕樹 福島県出身 東京大学出身



横尾 和希 山形県出身 京都大学出身



提知識を入れる時間もなく質問を考え、何とか乗り越えました。次回はもっと下調べしなければという教訓を得た、非常に良い経験になりました。

フェイスブックのページも作り、今年はこまめに情報を発信していくことが目標(寺門)

司会(秋保):ワークショップは、ただ発表するだけではなく、最終報告会に提案先の方を招き意見をもらう機会や完成した最終報告書をヒアリング先やお世話になった方々に送るのもこの大学院の魅力ですね。

八城:ワークショップDのテーマは「東北地域からエネルギー施策を考える」で、2050年という遥か未来のエネルギーの将来像を見極めたうえで、東北地方がどういう役割を果たしていくのか、今からどのような施策を打っていくべきかを考察していくものです。この1ヶ月は先生からレクチャーを受けたり、各人資料に当たっていました。

司会(磯部): 授業以外の自主的なサブゼミなどはやっていますか? 寺門: ワークショップ A はグループLINEとメーリングリストで、先生も含めてほぼ毎日何かしら議論しています。 フェイスブックのページも作り、 今年はこまめに情報を発信していくことを目標にしています。

先生との距離がとても近く、学生の意見交換もとても活発なのは、 学部時代にはなかった(八城)

司会(磯部):ワークショップ以外の授業のことを教えてください。

横尾:防災法の授業を受けているのですが、興味があるとはいえ、防災 行政がどのように行われているのか知識がありませんでした。実際にそ の法律に関わってきた先生から、どのような問題意識のもとにその法律 を作ったかを実務的な視点でお聞き出来るというのは、非常に面白いで す。先生が現役の公務員の方などを招き講演してくださる授業もあり、貴 重な経験になっています。

八城:公共哲学を取っているのですが、学生が6人なのでゼミのような感じです。先生との距離がとても近く、学生の意見交換もとても活発なのは、学部時代にはなかった授業ですね。

寺門:先日、ひとり4分与えられてプレゼンするという課題があり、久しぶりに仕事で評価されるのとは違うプレッシャーを味わいました。何かを調べて書くだけでなく、発表まであるのがこの大学院の授業ならではですね。

司会(秋保):ワークショップの中間報告や最終報告では、発表の構成や話し方などの伝え方についても先生や先輩からダメ出しやアドバイスがきます。それは社会に出てからも役に立つことですね。

24時間、ほぼ365日1人1席の自習室を与えられていることはこんなに贅沢なことなのかと感じる(横尾)

司会(磯部):キャンパスライフについてお聞きしますが、元々仙台におられたのは寺門さんだけ、他の方は初めて仙台に来られたのですね。初めての仙台はどうですか。

下川: ご飯も美味しくて街も広く、住みやすくて良い所だなと思います。 司会(磯部): 僕も、東京に比べたらちょうどいい感じの都会で、程よく人間らしい生活が出来る街だなと常々思っています。

横尾:学部時代に勉強していた図書館は隣の人と席が近かったので、1人1席の自習室を与えられていることはこんなに贅沢なことなのかと感じています。しかも24時間、ほぼ365日。

寺門:24時間開いているので、私も本当に重宝しています。仕事が終わった夜中や、土日に使えるので。

司会(機部): 片平キャンパスは東北大学のキャンパスのなかでも便利な立地なので、授業が終わってからみんなでどこかのお店に場所を移して議論出来るのもいいですね。実務家の先生たちとお酒を飲むのも、いろいろなお話を聞けて楽しいですよね。

横尾:ワークショップCは授業のあと、先生も一緒に必ずご飯を食べに行きます。最近では壱弐参(いろは)横丁によく行っています。

下川:ワークショップBでも先々週飲みに行きましたが、同じ先生を通して、今のワークショップBと昨年度のワークショップBの先輩方が一緒に食事に行くなど、先輩・後輩的な繋がりなどもあります。

水力発電発祥の地・三居沢にある電気百年館や、東北大学理学部の 自然史博物館が隠れたお薦めスポット(寺門)

専門:ワークショップAでは、夏にコテージを借りてOBの方々も含めて合宿する予定があります。私は仙台に住んで15年になりますが、やっぱり住みやすい街ですね。職業柄お薦めしたいのは、「るーぷる仙台」という周遊バスです。仙台城や瑞鳳殿などの観光地はもちろん、水力発電発祥の地・三居沢にある電気百年館や、東北大学理学部の自然史博物館が隠れたお薦めスポットですね。

下川:時々「熊が出た」という周知メールが学校から届くのには驚きましたが(笑)。

司会(機部): この時期は特に新緑で、いかにも「杜の都」という感じが美しいです。被災地が近いことですとか、東北は過疎や高齢化が進んでいるなど様々な問題の先進地でもあります。東北という地の利を生かして研究が出来るということも、仙台の魅力なのかもしれません。

ワークショップをみんなと協力してやり遂げ、そこで自分の考える力と 相手に伝える力を磨いていきたい(八城)

司会(秋保):今後の抱負ということで、この大学院での抱負とその先に描いている将来ビジョンを教えてください。

八城:やはり今のワークショップをみんなと協力してやり遂げ、そこで自分の考える力と相手に伝える力を磨いていきたいと思います。また実務家の先生方の授業で行政の実態や知識を身に付け、将来は公務員として行政に関わっていけたらと考えています。特に農業、環境、エネルギーの分野で役に立てたらよいですね。震災の経験や、実家が最近まで農業をやっていたので、特に農業については様々な厳しい問題がある中で、法律や制度を変えることで支えていけるような仕事が出来ればという気持ちがあります。

横尾:修士1年の共同研究(ワークショップ)と修士2年の個別研究で、きちんと実効性のあるものを残していきたいです。発信力など自分の弱点を、ワークショップを通して磨いていくことが、自分がここでやるべきことかもしれません。授業やワークショップで、学生が出した意見に先生がフィードバックをくださるので、そこでまた考えを深めていく力を付けていきたいと思います。公務員を目指しているのですが、それは防災の制度をきちんと作り、人々の防災意識を高めることに協力したいと思うからです。今後も起こるかもしれない地震に対し、出来るだけ犠牲者を少なくしたい。特に南海トラフ地震や首都直下地震などの難題にいかに立ち向かうかに挑戦したいと思っています。

周囲の人に助けられてきたので、制度を作ることを通じて、少しでも 人を助ける仕事に就きたい(下川)

下川: 福祉などの分野において、エビデンスに基づいた政策をどう立案していくかについてもう少し掘り下げていきたいと思っています。実証分析に関する集中授業が夏季にあるので、その点について勉強してみたいと考えています。実は子どもの頃身体が弱く、大病をして入院したことがありました。そうして周囲の人に助けられてきたので、制度を作ることを通じて、少しでも人を助ける仕事に就きたいと思い、将来は公務員を志望しています。ですが民間にもシンクタンクなどパブリックな部分に関わる職種があるので、そういった方にも目を向けていきたいと思っています。

自分の考えていることが政策という形になって、しかもそれで社会を 変えていくというのは、とても魅力的なこと(磯部)

司会(磯部):自分の考えていることが政策という形になって、しかもそれで社会を変えていくというのは、とても魅力的なことですよね。

寺門:一般の社会に生きていると、政策の提言をする機会などまずありません。それをここでは形に出来ます。まずは修士1年のワークショップをまとめ、修士2年では自分の専門分野で考えていることを形にすることが目標です。

私は4年かけてゆっくり学んでいくので、じわじわと自分の仕事にも生かせていけるかなと楽しみでもあります。私の職場には、市役所と民間企業の双方から出向して来た方々がいます。公共政策を学びながら、その方々の背景や考え方を理解し、その間にいる感覚で現場を繋ぐことができるので、実は一番面白いポジションにいるのかもしれません。

同じ志を持つ仲間、同じ学生の立場の社会人、そして応援してくださる先生方の中で学んでいくことができる(横尾)

司会(磯部):では最後に、これから入学を考えている人たちにメッセージをお願いします。

横尾:私もそうですが、公務員試験や就職活動が上手くいかず、このパンフレットを見ている方もいるかと思います。現実的な話、留年したほうが学費も安く済んでいいと考えるかもしれませんが、自分はここに来て本当に良かったと思っています。授業やワークショップはもちろんですが、ここでは同じ志を持つ仲間、同じ学生の立場の社会人、そして応援してくださる先生方の中で学んでいくことが出来ます。受験前に本校のHPにアップされていたワークショップの報告書を見て、自分ひとりではここまで出来ないと思いましたが、仲間とならこの山を乗り越えていけると感じています。本当に、自分が成長していける場所だと思います。

八城: 僕自身は、東北地方やこの大学院で扱っている様々な分野に興味を持ってここに来たのですが、漠然と何をしていいか困っている人でもいろいろ学んでいけます。僕は経済学部出身ですが、法律の授業もとても丁寧に教えていただけるので、どんな学部出身でも困ることはないと思います。これだけ先生と近い距離で学べる機会もなかなかありませんよ。

前例に囚われない自由な発想に出会え、先生方もそれを面白く 広げてくれる(寺門)

寺門:現在の職場では、自分たちでアイディアが出なくなると、観光系のゼミのある大学と協力して、ゼミとタイアップしようという考えなども出てきます。前年踏襲の事業が増えて、新しいことをしようと思っても何をしていいかわからなくなっているんですね。どんな仕事でもそうですが、ちょっと煮詰まってフレッシュなものが欲しいと感じている人は、ぜひもう一度自分が学びに出てみることをお薦めしたいと思います。ここでは前例に囚われない自由な発想に出会えますし、先生方もそれを面白く広げてくださいます。

仕事をしながら学ぶことは、かなり辛いと思います。でも、仕事で徹夜するのと学びで徹夜するのでは、ちょっと味が違うと思います。迷っているのでしたら、ぜひお薦めします。

下川: この大学院の売りは、ワークショップで理論と実践を融合させて学べるところです。法学部時代は座学の授業ばかりでしたが、ここでは現場に飛び込んで様々なお話しを聞けるので、それがとても魅力的です。進路に悩んでいる方は、説明会に参加されることをお薦めします。



多様な方々と出会う機会があり、学生というフラットな立場で現場の方々 と関わることが出来るのがいいところ(秋保)

司会(磯部): そうですね。説明会だけでなくオープンキャンパスもありますので、ぜひ公共政策大学院の雰囲気を感じに来てください。

司会(秋保):社会人の学生の方もすごく増えてきています。特定の職業に就いてしまうと、そのなかで物事を考えがちになりますが、ここでは多様な方々と出会う機会があります。学生というフラットな立場で現場の方々と関わることが出来るのがいいところだと思います。自分たちの常識や物差しではなく、地域や行政の方々と関わることで自分の幅も広がりますし、物事が出来ていく過程を学べるいい機会になるのではないかと思います。ぜひ、扉を叩いてみてください。

平成30年度入学の修士1年の入学者の内訳は次のとおりとなっています。

- ■地方議会議員2人 ■地方公共団体職員5人 ■民間企業職員2人 ■国家公務員1人
- ■元地方議会議員1人 ■元海外企業職員1人 ■学部卒業後入学14人 合計26人

さまざまなフィールドで活躍する修了生

この「橋」を 渡ったことで見えた景色

国家公務員

石田 大貴

(平成28年度修了)

環境省大臣官房環境保健部 環境保健企画管理課 千葉県出身、明治大学文学部卒業

これは私の持論ですが、本大学院は学生と社会人、理 論と実践、そして多様なバックグラウンドを持つ人達との 間に架かる橋のようなものだと思います。

一歩橋に踏み出すと、やがてその橋の上に立つことで 見える景色に気がつきます。例えば、ある政策を考える 際、多様なアクターが複雑に絡むことでその合意形成は 困難といえます。本学の公共政策ワークショップでは、こ れを体感しつつ、解決に資するために実務家や研究者を 交えたチームで日夜議論を行います。そして中央省庁、地



方自治体、民間企業、時には海外の機関等にもヒアリング を行い、政策提言の方向性や妥当性を探っていきます。

現在、公害対策を行う部署に所属する私は、実際に 色々な方のお話を伺う機会があり、よくヒアリングの経験 を思い出します。さらに、現在の直属の課長が本学でお 世話になった教授であること等も含め、この橋を渡ったこ とが、様々な側面で良い経験になったと感じます。

皆さんも東北大学公共政策大学院という橋に歩みを 進めてみませんか。

かけがえのない 「人」と出会える場

地方公務員

石垣 友香子 (平成29年度修了)

仙台市役所青葉区 保健福祉センター家庭健康課 仙台市出身、早稲田大学政治経済学部卒業

本年4月に仙台市役所に入庁し、現在は青葉区保健福 祉センターにて保育所の利用調整等、保育に関わる仕事 をしています。一人でも多くの待機児童を減らすべく、 日々市民の目線に立ち、一人ひとり真摯に向き合いなが ら業務にあたっている先輩方に囲まれながら、はやく一 人前になりたいと奮闘中です。

本学の特徴ともいえるワークショップでは、チームワー ク力が鍛えられたと感じています。グループとして一つの 政策を作り上げていくためには、グループ内の人間関係 を円滑に進めるだけでなく、情報や疑問点を他のメン



バーに正確かつ分かりやすく伝えることが求められます。 これらの力は実際に仕事をするうえで不可欠な能力であ ると日々感じています。

修了後間もないですが、既に多くの機会で先生方や先 輩方、ワークショップメンバー、同級生に支えられていま す。本学は知識を学べることはもちろんですが、素晴らし い先生方や仲間、ヒアリングで出会った方など、多くの人 とのつながりを得られる場です。皆さまの入学を心からお 待ちしています。

さまざまなフィールドで活躍する修了生

職業人としての礎を築く

国家公務員

石川 祐帆

(平成25年度修了)

総務省自治財政局地方債課 北海道出身、東北大学法学部卒業

7年前、津波によって失われた町を初めて見た時、大変なショックを受けると共に、誰がどのような役割を果たすことで町を再建していくのか学びたいと強く思い、本学への進学を決めました。在学中は、震災復興に係る法制度を研究するワークショップを選択し、実務家教員の指導の下、「現場の声によく耳を傾けて課題を発見し、その解決策を冷静に考える」手法を学びました。このワークショップでの経験を通じて法制度を考えることに醍醐味を感じ、国家公務員を志しました。

入省後、熊本県庁に出向した際に、熊本地震が発生。今度は行政内部から復旧・復興に関わることとなりました。



被災者の生活支援をどう行うか、被災道路をどう復旧するか等、無数に問題が発生していましたが、どの問題についても本学で学んだ手法が重要であると再認識することとなりました。

座学だけではなく自らの足を使って学び取るワークショップは、職業人にとっても大切なことが学べる、本学の大きな魅力です。

東北発! "公共生"の力が社会を変える

民間企業

村井 昭秀

株式会社NHKエンタープライズ制作本部制作企画ディレクター/プロデューサー 奈良県出身、東北大学法学部卒業

皆さんと同じように進路に悩む学部3年の2011年3月、 私は仙台市内で東日本大震災を体験しました。就職は捨て難き道でしたが、震災復興を学び自分自身を見つめ直す機会として本学の門を叩くことを決めました。

在学中に注力したことは何と言っても「ワークショップ」の一言に尽きます。実務家教員の指導の下、専門書や論文を輪読しつつ、フィールドワークやヒアリング調査を行い、現実の社会で何が求められているのか、理論と実務を融合させるのは生半可なことではありません。

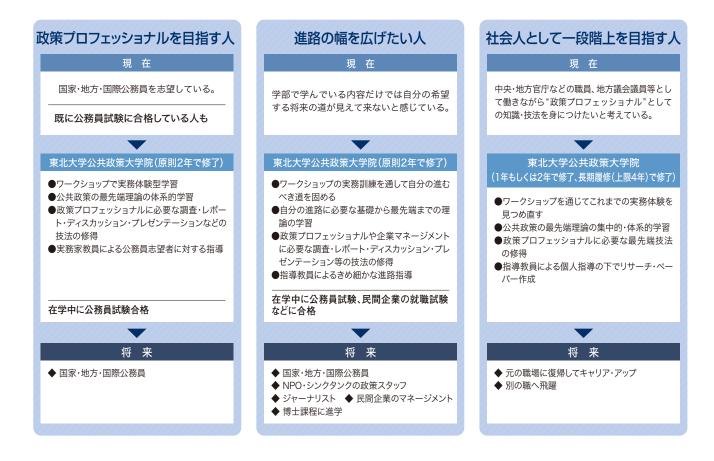


(後列中央が筆者)

しかし、本学で学んだその実践力は、正に今の仕事である「取材」で活かされています。私は「報道」「ドラマ」「科学」と様々な番組を担当しましたが、すべては取材から始まります。限られた時間で専門的知識を身につけつつ、当事者に話を聞く。在学時から現場目線で思考するフレームワークを鍛えることは社会に出る上でもきっと大きなアドバンテージになると思います。

就職・進路関係

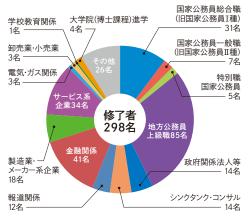
東北大学公共政策大学院で学ぶことによって、どのような将来が拓かれるでしょうか。

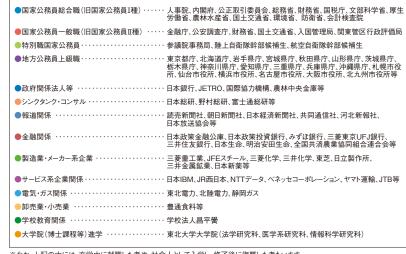


修了生の就職先・進路としては、中央省庁・地方自治体等の幹部候補生、国際公務員のほか、ジャーナリストやシンクタンクのスタッフ等を念頭に置いています。

ワークショップ等を通じて獲得されるであろう、課題発見に始まり情報収集、解決策の作成検討に至る政策の企画立案に関する様々な能力は、社会人として実務に携わっていく上でまさに有用なものであり、多くの官公庁・企業等において高く評価されるものと考えています。

■ 修了生(第1期~第13期生)298名の進路





※なお、上記の中には、在学中に就職した者や、社会人として入学し、修了後に復職した者もいます。

勉強、研究をサポートする充実した施設

1 クークショップ室

各ワークショップごとに、調査研究を進めるためのワークショップ室が与えられています。ワークショップ室は、24時間利用可能です。

所属メンバーは、毎週火曜日午後のワークショップの授業の際に集まって議論を行うだけでなく、いつでも集まり、議論し、資料を作成し、文献を研究することができます。



2 自習室

エクステンション教育棟内に自習室があり、学生は1人に一つの勉学用の机が与えられています。自習室は24時間利用可能です。



3 学生寄宿舎

留学生との共同生活を行うユニバーシティ・ハウス (写真) をはじめとした各種学生寄宿舎を、低額で利用することができます。



奨学金その他の各種支援制度

7 入学料・授業料免除

経済的理由により入学料を納付することが困難であると認められ、かつ、学業が優秀である と認められる方等については、選考の上、入学料の全額又は半額の免除が許可される制度が あります。

また、経済的理由により授業料を納付することが困難であると認められ、かつ、学業成績が優秀であると認められる方等については、選考の上、授業料の全額、半額又は3分の1の額の免除が許可される制度があります。

これらのほか、入学料や授業料の徴収猶予の制度があります。

2 奨学金

当大学院の学生は、日本学生支援機構奨学金として、第1種奨学金(無利子)、第2種奨学金(有利子)を申請することができます。そのほか、各種奨学金(地方公共・民間奨学団体等)があります。

入試関係情報

1 アドミッション・ポリシー

東北大学公共政策大学院が受け入れる学生像とは、「公共政策ワークショップ」をはじめとするカリキュラムによって、他の学生と切磋琢磨しながら自己の能力を一層涵養することのできる人物であり、具体的には以下の資質を持つ人物です。

- ●学部で学んだ専門知識を基盤としつつ、公務及び公共政策の立案・制度設計について多角的な視点から 学習する意欲と基礎的な能力を有すること。
- ◎討論・交渉・文章作成・プレゼンテーションなどコミュニケーション能力を豊かに持ち、集団作業に貢献できる適性を有すること。
- ●公共性への情熱を持ち、公務に対し献身的な資質を有すること。

したがって入学試験では、特定の行政課題に関する基本的な理解とそれに基づき考察する能力を有していることを考査するとともに、「公共政策ワークショップ」において集団作業に積極的に参加する人物であることを面接で審査します。これによって、特定の学部の卒業生に偏ることなく、様々な学部の卒業生や社会人経験を持つ者から多様な学生の受け入れを進めます。

本学を志望する留学生は、出願の際に「日本語能力試験 認定結果及び成績に関する証明書」(原本)を提出してください。本学の教育プログラムに参加するには日本語能力試験N1で150点相当の成績と日本の国内行政に関する大卒レベルの知識が必要となります。

2 入学試験の概要

入学試験は、第1期募集、第2期募集、政策法務教育コース募集の3回に分けて行われます。

※政策法務教育コースは、公共政策全般に関する実務に3年以上携わった方(例えば、地方議会議員や行政機関の職務経験者、社団法人・財団法人やNPO等において公共性の高い業務を経験された方)を対象としたものです。

第1期募集及び第2期募集の入学試験は、提出書類、小論文及び口述試験の総合判定により行います。 政策法務教育コースの入学試験は、提出書類(スタディ・プラン等)及び口述試験の総合判定により行います。

●小論文

小論文の問題は、現在の日本が直面している政策課題について受験生の理解度と見解を問うものとなります。受験生は、内政、経済、国際関係の3分野から出される問題のうち一つを選択して小論文を作成します。過去の問題は、東北大学公共政策大学院のウェブサイトに掲載されておりますので、事前チェックをお薦めします。

●□沭試験

口述試験は、受験生の公共政策全般に対する姿勢、コミュニケーション能力、モチベーション等を総合的に判定するために行われます。

過去の小論文の問題は、 東北大学公共政策大学院 のウェブサイトを参照して 下さい。____



3 本年度の入学試験の日程・場所・出願方法

詳細は、各募集ごとの「平成30(2018)年度東北大学公共政策大学院学生募集要項」をご覧ください。

	第1期募集	政策法務教育コース	第2期募集			
募集定員	合計30名					
募集要項・出願書類の配布	7月上旬	9月上旬	11月下旬			
出願受付	平成30年9月6日(木)~9月12日(水)	平成30年10月22日(月)~10月26日(金)	平成30年12月25日火~平成31年1月4日金			
入学試験	平成30年9月29日(土)•9月30日(日)	平成30年11月17日(土)	平成31年1月19日(土)			
合格者発表	平成30年10月5日金	平成30年11月20日(火)	平成31年1月25日俭			

- ●募集要項及び出願書類の用紙は、東北大学法学部・法学研究科専門職 大学院係の窓口で配布します。また、郵便で取り寄せることもできます。
- ●入学試験は東北大学片平キャンパスで実施します。
- ●入試情報は、随時、東北大学公共政策大学院のウェブサイトに掲載されますので、ご参照ください。

入試情報は東北大学公共政策 大学院のウェブサイトを参照して 下さい。



http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/admission/

平成30年度 入試説明会及びオープンキャンパス

お申し込み・参加費不要



※上記の会場において、本大学院を知っていただくため、教員等による説明会を開催します。

開催場所・時間等の詳細は、東北大学公共政策大学院 ウェブサイトでご確認ください。

http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/









東北大学公共政策大学院

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1 東北大学法学部·法学研究科専門職大学院係 TEL. 022-217-4945 E-mail contact@publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/ http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/



